

平成 29 年 8 月 10 日

お客様各位

日本農薬株式会社

農薬登録のご連絡の件

首記の件、下記について登録されましたのでご連絡致します。

記

1.新規登録 平成 29 年 8 月 9 日付 (3 件)

(1)ネマクリーン粒剤

登録第 23962 号

有効成分:フルオピラム…0.50 %

毒性:毒物劇物に該当せず

危険物区分:一

適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルオピラムを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	ジャガイモシストセンチュウ	20kg/10a	植付前	1 回	全面土壌混和	1 回
かんしょ	ネコブセンチュウ		は種前			
だいこん	ネグサレセンチュウ		植付前			
にんにく	イモグサレセンチュウ					

使用上の注意事項

- (1)間引き菜、つまみ菜に使用しないこと。
- (2)蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (3)本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

(2)日農バサグラン液剤(ナトリウム塩)

登録第 23964 号

有効成分:ベンタゾン…40.0%
 毒性:毒物劇物に該当せず
 危険物区分:—
 適用雑草及び使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地域	ベンタゾンを含む農薬の総使用回数			
			薬量	希釈水量							
移植水稻	水田一年生雑草 (イネ科を除く) マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、 オモダカ、ミスガヤツリ、 ハラオモダカ、クログワイ、 コウキヤガラ、エゾノサヤヌカガサ、 シズイ、クサネム	移植後 15～55 日 但し収穫 50 日前まで	500～ 700mℓ /10a		2 回 以内	落水散布 又は ごく浅く 湛水して 散布	—	2 回以内			
直播水稻	水田一年生雑草 (イネ科を除く) マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、 オモダカ、ミスガヤツリ、 ハラオモダカ、クログワイ	は種後 35～50 日 但し収穫 50 日前まで									
たまねぎ (春播移植栽培)	一年生雑草 (イネ科を除く)	移植後 6 月上旬まで (雑草の 3～4 葉期) 但し収穫 30 日前まで	60～ 120mℓ /10a	70～ 100ℓ /10a	1 回	雑草茎葉 散布	全域	1 回			
たまねぎ (秋播移植栽培)		移植後生葉 4 葉期まで (雑草の 3～4 葉期) 但し収穫 30 日前まで									
らっきょう		出芽後(雑草の 3～6 葉期) 但し収穫 60 日前まで									
いんげんまめ		初生葉展開期～本葉抽出始期 (雑草の 2～3 葉期)	50～70 mℓ/10a						北海道		
えんどうまめ		3～6 葉期(雑草の 3～6 葉期) 但し収穫 70 日前まで	100～ 200mℓ /10a						全域		
実えんどう さやえんどう		3～6 葉期(雑草の 3～6 葉期) 但し収穫 40 日前まで									
とうもろこし 飼料用とうも ろこし		生育期(雑草の 3～6 葉期) 但し収穫 50 日前まで	100～ 150mℓ /10a						全域		
ソルガム		生育期(雑草の 3～6 葉期) 但し収穫 30 日前まで									
麦類 (小麦を除く)		一年生雑草 (イネ科を除く)	生育期(雑草の 3～6 葉期) 但し収穫 90 日前まで						100～ 200mℓ /10a	2 回 以内	2 回以内
小麦			生育期(雑草の 3～6 葉期)								
はとむぎ	生育期(雑草の 3～6 葉期) 但し収穫 45 日前まで		150 mℓ /10a								
べにばない んげん	生育期(雑草の生育初期～6 葉期) 但し収穫 45 日前まで		100～ 200mℓ /10a	1 回	畦間雑草 茎葉散布	1 回					
せり	親株養成期 植付 45～60 日後まで	200mℓ /10a	100ℓ /10a	雑草茎葉 散布							

使用上の注意事項

- (1)イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草の優占圃場での使用はひかえること。また、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。
- (2)散布後、曇天、降雨日が長く続くと効果が劣ることがあるので、晴天時を見はからって散布するのが望ましい。
- (3)高温条件下では、葉害が生じやすいので異常高温下での散布はさけること。
- (4)重複散布は葉害のおそれがあるのでさけること。また、周辺作物にかからないように注意すること。
- (5)本剤の使用にあたっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (6)いんげんまめ、せりに使用する場合、本剤は葉枯・褐変症状の葉害を生じやすく、蒸散の盛んな高温乾燥条件下では葉害により減収することがあるので、雑草害が予想される場合に限り使用すること。
- (7)たまねぎに使用する場合、直播栽培および苗床のたまねぎには、葉害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (8)べにばないんげんに使用する場合、薬液が作物に飛散すると葉に褐変症状の葉害を生じるので、作物に飛散しないように注意すること。
- (9)せりに使用する場合には、落水状態にして水の出入りをとめ、まきむらのないように均一に散布すること。また、散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水しないこと。
- (10)水稲に使用する場合には一般的注意事項のほか下記についてとくに注意すること。
 - ①本剤は水の移動に伴う移行性が大きく、一般に水深の浅いほど効果が安定する。
 - イ)使用にあたっては落水状態にして水の出入りをとめ、まきむらのないよう均一に散布すること。
 - ロ)水を落とすことができないところでは漏水のない水田に限り、できるだけ浅水状態(雑草が水面上に出る状態)にしてまきむらのないよう均一に散布すること。
 - ハ)散布後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしないこと。また、散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水しないこと。
 - ニ)処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用すること。
 - ホ)深水にすると効果が劣るので注意すること。
 - ②イネ科雑草には効果が劣るので、田植前後の土壌処理除草剤で一年生雑草を防除した後、多年生水田雑草および一年生広葉雑草の防除を目的として使用すること。
 - ③本剤は生育期に入った雑草に効果があるが、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので必ず適期に散布すること。ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘオモダカでは発生盛期から増殖中期、オモダカでは発生盛期から増殖初期まで、クログワイでは草丈15~30cm、エゾノサヤヌカゲサでは1~4葉期、シズイでは草丈10~30cm、コウキヤガラでは増殖期、クサネムでは本葉展開期が本剤散布の適期である。
 - ④クログワイ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用すること。
 - ⑤軟弱稲では葉害(接触害)のおそれがあるので使用はさけること。
 - ⑥高温など葉害を生じやすい条件での使用は多めの希釈水量を用い、低濃度液をなるべく水稲にかからないように散布すること。
 - ⑦砂質土および漏水のはげしい水田では使用しないこと。(減水深2cm/日以上)

(3)日農バサグラン粒剤(ナトリウム塩)

登録第 23963 号

有効成分:ベンダリン…11.0%

毒性:毒物劇物に該当せず

危険物区分:—

適用雑草および使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ベンダリンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草(イネ科を除く) マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、 ヘオモダカ、オモダカ、クログワイ、 エゾノサヤスガガサ、シスイ	移植後 15～55 日 但し収穫 60 日前まで	3～4kg /10a	1 回	落水散布 又は ごく浅く 湛水して 散布	2 回以内
直播水稻	水田一年生雑草(イネ科を除く) マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、 ヘオモダカ	稲 3 葉期～入水 50 日後 但し収穫 60 日前まで	3kg /10a			

使用上の注意事項

- (1)本剤は水の移動に伴う移行性が大きく、一般に水深の浅いほど効果が安定する。
 - イ)使用にあたっては落水状態(足跡に水が残っている状態)にして水の出入りをとめ、まきむらのないように均一に散布すること。
 - ロ)水を落とすことができないところでは漏水のない水田に限り、できるだけ浅水状態(雑草が水面上に出る状態)にしてまきむらのないように均一に散布すること。
 - ハ)散布後少なくとも3日間(浅水処理は5日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしないこと。また、散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水しないこと。
 - ニ)処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用すること。
 - ホ)深水にすると効果が劣るので注意すること。
- (2)イネ科雑草には効果が劣るので、田植前後の土壌処理除草剤で一年生雑草を防除した後、多年生水田雑草および一年生広葉雑草の防除を目的として使用すること。
- (3)砂質土及び漏水のはげしい水田では使用しないこと。(減水深2cm/日以上)
- (4)本剤は生育期に入った雑草に効果があるが、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので必ず適期に散布すること。ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘオモダカでは発生盛期から増殖中期、オモダカでは発生盛期から発生揃期まで、クログワイでは草丈15cm以下、エゾノサヤスガガサでは1～4葉期、シスイでは草丈10～30cmが本剤散布の適期である。
- (5)クログワイ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用すること。
- (6)本剤の使用にあたっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

2.適用拡大 平成 29 年 8 月 9 日付 (1 件)

(1)フジワン乳剤

登録第 13277 号

〈1〉適用内容の変更

希釈倍数、使用液量の追加:稲(いもち病)/300 倍、25ℓ/10a

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イプロロホランを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 稲こうじ病	1000 倍	60~150ℓ/10a	収穫 14 日前 まで	2 回以内	散布	イプロロホラン:3回以内(移植前は1回以内、本田では2回以内)
	いもち病	300 倍	25ℓ/10a			空中散布	
		30 倍	3ℓ/10a			無人ヘリコプターによる 散布	
		8 倍	800ml/10a				

〈2〉注意事項の変更

【追加】(注意事項に下記項目を追加)

- ・本剤を本田の水稻に対して希釈倍数 300 倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用すること。

以上